

学期	月	単元	評価基準・評価方法			ICT活用
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	4	体づくり運動 (体ほぐし運動 体力を高める運動)	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることについて、言ったり書き出したりしている。</li> <li>運動を安全に行うには、関節への負荷がかかりすぎないようにすることや軽い運動から始めるなど、徐々に筋肉を温めてから行うことについて、言ったり書き出したりしている。</li> <li>実生活で運動を継続するには、行いやすいこと、無理のない計画であることなどが大切であることについて、言ったり書き出したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいや体力の程度を踏まえ、自己や(仲間)の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定している。</li> <li>健康や安全を確保するために、体力や体調に応じた運動の計画等について振り返っている。</li> <li>課題を解決するために仲間と話し合う活動を行い、最適な練習方法や課題解決に向けた方法を仲間へ伝えている。</li> <li>体力の程度や性別等の違いに配慮して、仲間とともに体づくり運動を楽しむための活動の方法を見付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体づくり運動の学習に自主的に取り組もうとしている。</li> <li>仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い教え合おうとしている。</li> <li>一人一人に応じた動きなどの違いを大切にしようとしている。</li> <li>自己や仲間の課題解決に向けた話合いに貢献しようとしている。</li> <li>健康・安全を確保している。</li> </ul>	タブレット端末
	5	ネット型 (生徒の発達段階に応じて)	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識                             <ul style="list-style-type: none"> <li>球技の各型において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</li> <li>戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて、言ったり書き出したりしている。</li> <li>練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、言ったり書き出したりしている。</li> </ul> </li> <li>技能                             <ul style="list-style-type: none"> <li>サーブでは、ボールをねらった場所に打つことができる。</li> <li>ボールを相手側のコートの中離れた場所やねらった場所に打ち返すことができる。</li> <li>ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。</li> <li>連携した動き</li> <li>ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができる。</li> <li>連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くことができる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間へ伝えている。</li> <li>自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。</li> <li>健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。</li> <li>ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。</li> <li>体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法を見付けている。</li> <li>球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>球技の学習に自主的に取り組もうとしている。</li> <li>相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。</li> <li>作戦などについての話合いに貢献しようとしている。</li> <li>一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。</li> <li>互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。</li> <li>健康・安全を確保している。</li> </ul>	タブレット端末
	6	陸上競技 (ハードル走、走り幅跳び 走り高跳び)	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識                             <ul style="list-style-type: none"> <li>陸上競技の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、記録の向上につながる重要な動きのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</li> <li>自己の動きや仲間の動き方を分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、言ったり書き出したりしている。</li> </ul> </li> <li>技能                             <ul style="list-style-type: none"> <li>ハードル走                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>スタートダッシュから1台目のハードルを勢いよく走り越すことができる。</li> <li>遠くから踏み切り、振り上げ脚をまっすぐに振り上げ、ハードルを低く走り越すことができる。</li> <li>インターバルでは、3又は5歩のリズムを最後のハードルまで維持して走ることができる。</li> </ul> </li> <li>走り幅跳び                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>踏み切り前3〜4歩からリズムアップして踏み切りに移ることができる。</li> <li>踏み切りでは上体を起こして、地面を踏みつけるようにキックし、振り上げ脚を素早く引き上げることができる。</li> <li>かがみ跳びやそり跳びなどの空間動作からの流れの中で、脚を前に投げ出す着地動作をとることができる。</li> </ul> </li> <li>走り高跳び                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>リズムミカルな助走から真上に伸び上がるように踏み切り、はさみ跳びやまたぎとびなどの空間動作で跳ぶことができる。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間へ伝えている。</li> <li>自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。</li> <li>健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。</li> <li>ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。</li> <li>体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに陸上競技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。</li> <li>陸上競技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上競技の学習に自主的に取り組もうとしている。</li> <li>勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。</li> <li>仲間と互いに合意した役割について自己の責任を果たそうとしている。</li> <li>一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。</li> <li>健康・安全を確保している。</li> </ul>	タブレット端末
7	9	水泳 (4泳法、長く泳ぐ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識                             <ul style="list-style-type: none"> <li>水泳の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、効率的に泳ぐためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</li> <li>自己の動きや仲間の動き方を分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、言ったり書き出したりしている。</li> </ul> </li> <li>技能                             <ul style="list-style-type: none"> <li>【泳法】</li> <li>クロール                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>水面上の腕は、ローリングの動きに合わせてリラックスして前方へ動かすことができる。</li> <li>平泳ぎ   <ul style="list-style-type: none"> <li>肩より前で、両手で逆ハート型を描くように強くかくことができる。</li> <li>ブルのかき終わりに合わせて顔を水面上に出して呼吸を行い、キックの蹴り終わりに合わせて伸び(グライド)をとり、1回のストロークで大きく進むことができる。</li> </ul> </li> <li>背泳ぎ   <ul style="list-style-type: none"> <li>水面上の腕は肘を伸ばし、肩を支点にして肩の延長線上に小指側からまっすぐ入水することができる。</li> <li>一連のストロークで、肩をスムーズにローリングさせることができる。</li> </ul> </li> <li>バタフライ   <ul style="list-style-type: none"> <li>腕を前方に伸ばし、手のひらが胸の前を通るようなキーホールの形を描くようにして腰や太ももくらいまで大きくかく動き(ロングアームフル)で進むことができる。</li> <li>手の入水時のキック、かき終わりの時のキック及び呼吸動作を一定のリズムで行うことができる。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>複数の泳法で泳ぐ                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで学習したクロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの4種目から2〜4種目を選択し、続けて泳ぐことができる。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各泳法について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間へ伝えている。</li> <li>自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。</li> <li>各泳法に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選んでいる。</li> <li>健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。</li> <li>(ハティ)やグループで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて自己の活動を振り返っている。</li> <li>体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに水泳を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。</li> <li>水泳の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水泳の学習に自主的に取り組もうとしている。</li> <li>一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。</li> <li>水の事故防止の心得を遵守するなど健康・安全を確保している。</li> </ul>	タブレット端末

9 10	<p>器械運動 (マット運動・跳び箱運動)</p>	<p>○知識          ・技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあり、同じ系統の技には共通性があることについて、学習した具体例を挙げている。          ・自己の動きや仲間の動き方を分析するには、自己観察と他者観察などの方法があることについて、言ったり書き出ししたりしている。          ・技と関連させた補助運動や部分練習を取り入れることにより、結果として体力を高めることができることについて、言ったり書き出ししたりしている。          ・発表会での評価方法、運営の仕方などがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>○技能          マット運動          〈回転系〉          《接転技群(背中をマットに接して回転する)》          ・体をマットに順々に接触させて回転するための動き方、回転力を高めるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回ることができる。          ・開始姿勢や終末姿勢、組合せの動きや支持の仕方などの条件を変えて回ることができる。          ・学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回ることができる。          《ぼん転技群(手や足の支えて回転する)》          ・全身を支えたり、突き放したりするための着手の仕方、回転力を高めるための動き方、起き上がりやすくなるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回転することができる。          ・開始姿勢や終末姿勢、支持の仕方や組合せの動きなどの条件を変えて回転することができる。          ・学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回転することができる。</p> <p>跳び箱運動          〈切り返し系〉          《切り返し跳びグループ(跳び箱上に支持して回転方向を切り替えて跳び越す)》          ・踏み切りから上体を前方に振り込みながら着手する動き方、突き放しによって直立体勢に戻して着地するための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて跳び越すことができる。          ・着手位置、姿勢などの条件を変えて跳び越すことができる。          ・学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで跳び越すことができる。</p> <p>〈回転系〉          《回転跳びグループ(跳び箱上を回転しながら跳び越す)》          ・着手後も前方に回転するための勢いを生み出す踏み切りの動き方、突き放しによって空中に飛び出して着地するための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて跳び越すことができる。          ・着手位置、姿勢などの条件を変えて跳び越すことができる。          ・学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで跳び越すことができる。</p>	<p>・技の行い方や技の組合せ方について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。          ・自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。          ・選択した技に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選んでいる。          ・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。          ・仲間やグループで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて自己の活動を振り返っている。          ・体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに器械運動を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。          ・器械運動の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。</p>	<p>・器械運動の学習に自主的に取り組もうとしている。          ・自己の状況にかかわらず、互いに教え合おうとしている。          ・仲間に課題を伝え合ったり補助し合ったりして、互いに助け合い教え合おうとしている。          ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。          ・健康・安全を確保している。</p>	タブレット端末
10 11	<p>球技 ゴール型 (生徒の発達段階に応じて)</p>	<p>○知識          ・球技の各型において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。          ・戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて、言ったり書き出ししたりしている。          ・練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、言ったり書き出ししたりしている。</p> <p>○技能          ゴール型          〈安定したボール操作〉          ・ゴールの枠内にシュートをコントロールすることができる。          ・味方が操作しやすいパスを送ることができる。          ・守備者とボールの間に自分の体を入れてボールをキープすることができる。          〈空間を作りだすなどの動き〉          ・ゴール前に広い空間を作りだすために、守備者を引きつけてゴールから離れることができる。          ・パスを出した後に次のパスを受ける動きをすることができる。          ・ボール保持者が進行できる空間を作りだすために、進行方向から離れることができる。          ・ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ることができる。          ・ゴール前の空いている場所をカバーすることができる。</p>	<p>・合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。          ・自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。          ・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。          ・ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。          ・体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法を見付けている。          ・球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。</p>	<p>・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。          ・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。          ・自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。          ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。          ・互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。          ・健康・安全を確保している。</p>	タブレット端末

12	<p style="text-align: center;">武道 (柔道)</p>	<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武道を学習することは、自国の文化に誇りをもつことや、国際社会で生きていく上で有意義であることについて、言ったり書き出ししたりしている。</li> <li>・武道には、各種目で用いられる技の名称や武道特有の運動観察の方法である見取り稽古の仕方があることについて、言ったり書き出ししたりしている。</li> <li>・武道では、攻防に必要な補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて、言ったり書き出ししたりしている。</li> <li>・試合の行い方については、簡易な試合におけるルール、審判及び運営の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。</li> </ul> <p>○技能</p> <p>柔道</p> <p>〔基本動作〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢と組み方では、相手の動きの変化に応じやすい自然体で組むことができる。</li> <li>・崩しでは、相手の動きの変化に応じて相手の体勢を不安定にし、技をかけたやすい状態をつくることができる。</li> </ul> <p>〔受け身〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の投げ技に応じて横受け身、後ろ受け身、前回り受け身をとることができる。</li> </ul> <p>〔固め技〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取はけさ固めをかけることができる。</li> <li>・取は横四方固めをかけることができる。</li> <li>・取は上四方固めをかけることができる。</li> <li>・受けは固め技に対して逃げるることができる。</li> </ul> <p>〔投げ技〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取は大腰をかけて投げ、受は受け身をとることができる。</li> <li>・取は体落としをかけて投げ、受は受け身をとることができる。</li> <li>・取は膝車をかけて投げ、受は受け身をとることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、練習の成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。</li> <li>・自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。</li> <li>・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。</li> <li>・相手を尊重するなどの伝統的な行動をする場面で、よりよい所作について、自己や仲間の活動を振り返っている。</li> <li>・体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに武道を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。</li> <li>・武道の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武道の学習に自主的に取り組もうとしている。</li> <li>・相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。</li> <li>・仲間と互いに合意した役割について自己の責任を果たそうとしている。</li> <li>・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。</li> <li>・健康・安全を確保している。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">タブレット端末</p>
1	<p style="text-align: center;">ダンス (現代的なリズムのダンス) BREAK</p>	<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンスの交流や発表の仕方については、簡単な作品の見せ合いや発表会などがあること、見る人も拍手をしたりリズムをとるなどしたりして交流し合う方法があることについて、学習した具体例を挙げている。</li> <li>・自己の動きや仲間の動き方を分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、言ったり書き出ししたりしている。</li> <li>・いろいろな動きと関連させた柔軟運動やリズムカルな全身運動をすることで、結果として体力を高めることができることについて、言ったり書き出ししたりしている。</li> </ul> <p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単なリズムの取り方や動きで、音楽のリズムに同調したり、弾む動きをしたりして自由に踊ることができる。</li> <li>・全身でビートに合わせて弾んだり、ビートのきいたブレイクダンスでは膝の上下に合わせて腕を動かしたりストップするようにしたりして踊ることができる。</li> <li>・リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせて、動きに変化を付けて踊ることができる。</li> <li>・リズムや音楽に合わせて、独自のリズムパターンや動きの連続や群の構成でまとまりを付けて踊ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループに応じて、表したいテーマにふさわしいイメージや、踊りの特徴を捉えた表現の仕方を見付けている。</li> <li>・ブレイクダンスの特徴に合わせて、よい動きや表現と自己や仲間の動きや表現を比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。</li> <li>・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。</li> <li>・体力の程度や性別等の違いに配慮して、仲間とともにダンスを楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。</li> <li>・ダンスの学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンスの学習に自主的に取り組もうとしている。</li> <li>・仲間に課題を伝え合ったり教え合ったりして、互いに助け合い教え合おうとしている。</li> <li>・作品創作などについての話合いに貢献しようとしている。</li> <li>・一人一人の違いに応じた表現や交流、発表の仕方などを大切にしようとしている。</li> <li>・健康・安全を確保している。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">タブレット端末</p>
3	<p style="text-align: center;">2 3 球技 ベースボール型 (生徒の発達段階に応じて)</p>	<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・球技の各型において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</li> <li>・戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて、言ったり書き出ししたりしている。</li> <li>・練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、言ったり書き出ししたりしている。</li> </ul> <p>○技能</p> <p>〈安定したバット操作〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体の軸を安定させてバットを振りぬくことができる。</li> <li>・タイミングを合わせてボールを捉えることができる。</li> <li>・ねらった方向にボールを打ち返すことができる。</li> </ul> <p>〈ボール操作〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・捕球場所へ最短距離で移動して、相手の打ったボールを捕ることができる。</li> <li>・ねらった方向へステップを踏みながら、一連の動きでボールを投げるができる。</li> <li>・仲間の送球に対して塁上でタイミングよくボールを受けることができる。</li> </ul> <p>〈連携した守備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・味方からの送球を受けるために、走者の進む先の塁に動くことができる。</li> <li>・打球や走者の位置に応じて、守備位置を変えるなどの動きをすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。</li> <li>・自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。</li> <li>・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。</li> <li>・ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。</li> <li>・体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法を見付けている。</li> <li>・球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。</li> <li>・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。</li> <li>・作戦などについての話合いに貢献しようとしている。</li> <li>・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。</li> <li>・互いに練習相手になつたり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。</li> <li>・健康・安全を確保している。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">タブレット端末</p>

通年	保健	①環境への適応能力 体には環境に対する適応能力があること、環境の変化が適応能力の限界を超えると健康に重大な影響が出ることから、気象情報の適切な利用が有効であることを理解している。	環境への適応能力について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	環境への適応能力についての学習に自主的に取り組もうとしている。
		②活動に適する環境 快適で能率のよい生活を送るための温熱条件や明るさには至適範囲があり、その範囲は学習や作業などの種類によって異なることを理解している。	温熱条件や明るさの至適範囲について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	温熱条件や明るさの至適範囲についての学習に自主的に取り組もうとしている。
		③飲料水の衛生管理 水は生命の維持や健康にとって重要であること、飲料水には水質基準があり、浄水場で浄化し検査していることを理解している。	健康や生活における水の役割や飲料水の条件について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	健康や生活における水の役割や飲料水の条件についての学習に自主的に取り組もうとしている。
		④室内の空気の衛生的管理 室内の二酸化炭素は、呼吸などにより増加し、空気の汚れの指標となること、定期的な換気は室内の二酸化炭素の濃度を衛生的に管理できることを理解している。また、一酸化炭素は、人体に有害であることを理解している。	空気の汚れと換気について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	空気の汚れと換気についての学習に自主的に取り組もうとしている。
		⑤生活にともなう廃棄物の衛生的処理 人間の生活に伴って生じた廃棄物は、その種類に即して自然環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があることを理解している。	生活に伴って生じた廃棄物の衛生的な処理の必要性について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	生活に伴って生じた廃棄物の衛生的な処理の必要性についての学習に自主的に取り組もうとしている。
		①感染症の広がり方 感染症は、病原体に感染することによって起こる病気であり、病原体の感染には、自然環境と社会環境、主体の条件が関係することを理解している。	感染症の原因について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	感染症の原因についての学習に自主的に取り組もうとしている。
		②感染症の予防 感染症を予防するには、発生源をなくす、感染経路を遮断する、予防接種で免疫を付けるなど体の抵抗力を高めることが有効であることを理解している。また、感染症にかかった場合は、できるだけ早く適切な治療を受けることが重要であることを理解している。	感染症の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	感染症の予防についての学習に自主的に取り組もうとしている。
		③性感染症の予防 性感染症は、感染経路が性的接触で、感染者の粘液などに含まれる病原体に感染する病気であること、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることを理解している。	性感染症の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	性感染症の予防についての学習に自主的に取り組もうとしている。
		④エイズの予防 エイズはHIVが引き起こす免疫の病気であり、その感染経路には性的接触による感染、血液を介しての接触、母子感染があり、性的接触をしないことが予防として有効であることを理解している。	エイズの予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	エイズの予防についての学習に自主的に取り組もうとしている。
		⑤医薬品の有効利用 医薬品には、主作用と副作用があること、医薬品は正しく使用する必要があることについて理解している。また、心身の状態が不調である場合は、できるだけ早く医療機関で受診することが重要であることを理解している。	医薬品の有効利用について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	医薬品の有効利用についての学習に自主的に取り組もうとしている。
⑥保健・医療機関の利用 健康の保持増進や病気の予防には、地域の保健所、保健センターなどが行われていることを理解している。	個人の健康を守る社会の取り組みについて、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	社会の取り組みについての学習に自主的に取り組もうとしている。		
⑦健康を守る社会の取り組み 健康の保持増進や病気の予防には、健康増進法などの法律に基づいて、健康診断や健康相談などが行われていることを理解している。	社会の取り組みについて、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	個人の健康を守る社会の取り組みについての学習に自主的に取り組もうとしている。		
⑧保健の学習を振り返ろう 健康の保持増進や病気の予防には、個人が主体的に努力し、社会全体でそれらを支援することの重要性を理解している。	個人の健康を守る社会の取り組みについて、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	個人の健康を守る社会の取り組みについての学習に自主的に取り組もうとしている。		
通年	体育理論	①現代社会におけるスポーツの文化的意義 スポーツは、文化的な生活を営み、よりよく生きていくために重要であることを理解している。	スポーツの文化的意義について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	スポーツの文化的意義についての学習に自主的に取り組もうとしている。
		②国際的なスポーツ大会の役割 オリンピックやパラリンピックおよび国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていることを理解している。	国際的なスポーツ大会の文化的な役割について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	国際的なスポーツ大会の文化的な役割についての学習に自主的に取り組もうとしている。
		③人々を結び付けるスポーツ スポーツは、民族や国、人種や性、障がいの違いなどをこえて人々を結び付けていることを理解している。	人々を結び付けるスポーツについて、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	人々を結び付けるスポーツについての学習に自主的に取り組もうとしている。